

## 平成 28 年度 聖母被昇天学院中学校高等学校 学校評価報告書

### 1 めざす学校像

『社会を変革し、世界平和に貢献する人の育成』

“Assumption Education Program” の構築

「グローバルな視点に立って、国際社会において貢献できる人の育成」

～2030 年の社会に向けて「聖母被昇天学院のグローバル教育」をもとに「アサンプション国際—21 世紀型教育—指導。」を始動

【理念】

1. 『共に喜びを分かち合える教育活動の展開』

《生徒・保護者・地域等から評価される教育活動の展開》

すべての教育活動において、信頼と満足度の向上を目指す

2. 選ばれる学院になるために

学院のおかれている状況を再認識し、教職員一枚岩となって「進化」していく

### 2 中期的目標

1. 教育力の向上 2017 年度教育改革に向けた教育プログラムの準備と教員研修の実践

2. 入学者の確保 広報戦略の強化

3. 2017 年度に向けての教職員体制の検討と組織の見直し

4. 2017 年度教育改革に伴う施設設備の整備

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 29 年 1 月・2 月実施分]	学校評価委員会からの意見
○保護者 保護者アンケートは中 1～高 2 は配布 2 月 2 日、回収 2 月 9 日、高 3 は配布 2 月 16 日、回収 2 月 21 日に実施した。アンケート結果や自由記述の回答より、2017 年度教育改革が共学化や校名変更など大胆な変更の為、戸惑いを感じている保護者が多い印象である。今までの古き良き聖母被昇天らしさを大切にしてほしいという意見や改革に向けて頑張してほしいという激励の意見をいただいた。しかし、第一はやはり生徒へのフォローが保護者から学校に求められているものである。新教育改革制度のもと入学する新入生と変化を著しく感じる在學生への対応に関して保護者・生徒の不安を軽減するため今まで以上にきめ細やかな情報共有や教員との連携が求められている。	(第 1 回：平成 28 年 5 月 11 日 (水)) 改革による学校の魅力づくりに協力ができることがあれば協力したい。評価委員会は評価のみにとどまらず、改革の PDCA に協力したい。  (第 2 回：平成 28 年 6 月 22 日 (水)) 改革の中でも保護者の大半は生徒の大学進学を望んでおり、改革のより良い流れの波及は大歓迎であるので、生徒の力を最大限発揮するように指導して欲しい。  (第 3 回：平成 28 年 9 月 14 日 (水)) 改革に伴う施設設備面についての進捗状況の確認があった。概ね、順調に進んでいるとの、報告があった。(共学のための男子トイレの新設、それに伴う女子トイレの充実、男子・女子それぞれの更衣室の新設、PBL 型授業実施のための新教室の設置、ICT 教育環境充実のために全教室電子黒板の設置、LAN 環境の整備等)

○教員

教員アンケートは配布 1 月 23 日、回収 1 月 31 日に実施した。

教職員間の一致した目標意識についての肯定的な評価が 95%（強く思う：35% 少し思う：60%）と高く、教員の団結力の強さがうかがえる。教職員が同じ目標に向いていることは、新教育改革の成功のカギである。また、教育力向上のための分掌・学年・教科を超えた連携、および、保護者との連携について実施できている評価も高かった。一方で、新教育課程の具体的な研修・課題検討などについては円滑に進んでいないと感じている教員もいることがアンケート結果より分かった。2016 年は新教育改革に向けての目標意識の共有ができたと感じている。今後、具体的な取組の部分に注力し、新教育改革の実現を教職員一枚岩となって進めていく必要がある。

【分析】

改革には不安が伴うものである。保護者も教員も新しい施策よりも現状を踏襲しながら、徐々に変化を求めたがっているようであった。しかし、教育改革の内容をしっかりと周知し理解を得ることが一番大切なものであった。教職員もそれぞれの意見を戦わせながら、一度方針が決まれば、それに基づいて学校運営がされることに理解を示すようになった。そうなると改革の速度も加速され成果も見えていくことになる。保護者・生徒の不安を払拭しながらより進んだ教育環境が整備されることを教職員が一丸となって努めていく方向性が認知され始めている。

（第 4 回：平成 28 年 11 月 16 日（水））

改革の先にある「大学入試改革」、「高大接続」等の情報を共有できる機会を生徒自身はもちろん保護者自身、評価委員にも学ぶ機会を設けるよう、要望が出された。

（第 5 回：平成 28 年 12 月 14 日（水））

教育における生徒のモチベーションの向上を図るには学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」「世界の平和に貢献できる人の育成」に基づき「21 世紀の社会で活躍できる人になろう」というメッセージを委員会としては共有していきたい。

（第 6 回：平成 29 年 2 月 1 日（水））

改革、改革といっても学校教育の中では「授業」が最も重要視されるべきものである。これから、保護者アンケート、教員アンケートが実施されると思うが、特に「授業満足度」の分析を中心に教員側で共有していく必要がある。それとともに教員の授業に対する思いを生徒に伝えることによって生徒の意識にも変化を求めるべきである。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中 期 的 目 標	今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1 教育力の向上 2017年度教育改革に向けた教育プログラムの準備と教員研修の実践	<p>(1) 2017年度からの新しいカリキュラムや年間行事予定の検討・決定</p>	<p>ア) 2017年度教育改革に沿った新しいカリキュラムの検討・作成を行う。</p> <p>イ) 2017年度の柱である21世紀型教育(英語イマージョン教育、PBL(課題解決)型授業、ICT)に結び付く行事の選定・導入を行う。</p>	<p>ア) 英語イマージョン科目を決定し、また新しく開設する探究科の本格準備を実施する。(判定：○、△、×)</p> <p>イ) 21世紀型教育の下記3項目に関する行事の選定・導入ができたかを評価指標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語イマージョン教育</li> <li>・PBL(課題解決)型授業</li> <li>・ICT</li> </ul> <p>全てできた → ○ 一部できた → △ できなかった → ×</p>	<p>ア) 結果：○ 予定通り英語イマージョン科目の決定を行い、探究科開設に向けての本格準備も実施することができた。</p> <p>イ) 結果：○ イングリッシュキャンプ、エンカレッジプログラム、グローバルアクティビティなどの導入を決定した。また、保護者アンケートでは、国際交流の取り組みに関する項目で肯定的な評価が85%と高く、今後も継続して本校の特色を生かした取り組みを実施する。</p> <p>イングリッシュ・グローバル両コースに、特徴的な教育プログラムを準備できたと思われる。一方で、来年度の教育活動を進めていく中で新たに様々な課題が出てくることが予想されるので、2018年度に向けて、一度決めたカリキュラムや行事であっても柔軟に対応する姿勢を持つべきであると考えている。</p>
	<p>(2) 教職員研修の実施(学院主催のものも含む)</p>	<p>ア) 2017年度教育改革に伴う教員研修を行い、教員自身の教育・準備を図る。(例：英語イマージョン、共学化、ICT、PBL(課題解決)型授業、アクティブラーニング、等)</p>	<p>ア) 10件前後の教員研修を実施する。(DO)</p> <p>10件実施→○ 5件前後実施→△ 0件実施→×</p>	<p>ア) 結果：△ 下記の通り8件の研修を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①プロジェクトチーム研修</li> <li>②21世紀型教育に関する研修</li> <li>③アクティブラーニング研修</li> <li>④人権教育に関する研修</li> <li>⑤共学に向けた研修</li> <li>⑥パワハラ研修</li> <li>⑦英語イマージョン教育研修</li> <li>⑧Classi研修</li> </ol> <p>教育改革に伴う研修は意識向上と改革理解に有効。特に、人権研修とパワハラ研修は時代の趨勢課題として有意義なものであった。</p> <p>次年度、目標通り実施できるよう年間研修スケジュールを組み、確実に実施できるよう努める。</p>

<p>2 入学者の確保 広報戦略の強化</p>	<p>(1) 中学校 70 名 高等学校 70 名 を目標とした広報戦略の強化</p>	<p>ア) 校内入試イベント個別のちらしを作成する イ) 校内入試イベントの内容精査を図る。 ウ) 公立中訪問の回数を 4 回増やす。 エ) 入試制度の改善を行う。</p>	<p>ア) 11 月プレテスト・入試説明会、12 月入試対策セミナーの 2 つのイベントチラシを作成する。(判定：○、△、×) イ) 事前のリハーサルを行い、内容の精査・改善をする。(判定：○、△、×) ウ) 公立中訪問の回数を 2 回から 4 回に増やす。(判定：○、△、×) エ) 英語型や思考力型の試験を導入する。また、帰国生入試の導入も行う。(判定：○、△、×)</p>	<p>ア) 結果：○ 予定していた 2 つのイベント用のチラシを作製した。 イ) 結果：○ 事前のリハーサルを実施し、外部アドバイザー 2 名の先生から助言をいただき精査を行った。 ウ) 結果：○ 全教員で対応したことにより公立中訪問の回数を予定通り 2 回から 4 回に増やした。 エ) 結果：△ 中学生入試で「夢サポート入試」の名称変更や要項への詳細記載、英語型や思考力型の導入を行った。また、帰国生入試も実施した。  中学校は目標が達成できなかった(外部 12 名+内部 18/41 名)。(昨年：外部 20 名+内部 24/47 名、一昨年：外部 20 名+内部 25/48 名)。 高等学校は、目標が達成できた(外部 44 名+内部 35/44 名)。(昨年：外部 13 名+内部 32/45 名、一昨年：外部 8 名+内部 53/57 名)。来年度は、中学の入学者数を増やすための取り組みに力を注ぐ必要がある。</p>
<p>3 2017 年度に向けての教職員体制の検討と組織の見直し</p>	<p>(1) 人材確保、組織・体制の見直し、新カリキュラムの検討</p>	<p>ア) 2017 年度教育改革に即した人材の確保や体制の見直しを行い、本格的な準備を実施する。 イ) 2017 年度から新たに開設する 2 コースの体制・準備を行う。</p>	<p>ア) ICT 推進委員会、探究科、イマージョンコーディネーター、教育アドバイザーの採用、および、設置を行う。(判定：○、△、×) イ) 2017 年度から新たに開設する 2 コースの組織体制を作る。(判定：○、△、×)</p>	<p>ア) 結果：○ 計画通り ICT 推進委員会、探究科、イマージョンコーディネーター、教育アドバイザーの採用、および、設置を実施した。 イ) 結果：○ 2017 年度開設の 2 コースについて、イングリッシュコース主任とグローバルコース主任の設置を決定した。  21 世紀型教育の柱となる英語イマージョン、PBL(課題解決)型授業、ICT へのでこ入れができた。また、これら 3 本の柱について各教科担当教員との活発な議論がイマージョンコーディネータを交えて頻繁に行われ準備が現場担当レベルでも行われた。</p>

<p style="text-align: center;">4</p> <p style="text-align: center;">2017年度教育改革に伴う施設設備の整備</p>	<p>(1) 施設設備の整備</p>	<p>ア) 2017年度教育改革に伴い必要となる施設設備を検討し、整備を実施する。</p> <p>イ) 共学化に伴う学校空間の整備を実施する。</p>	<p>ア) 男子トイレ、多目的トイレ、更衣室、Future Room (PBL (課題解決) 型授業を促進する教室空間) の設置、学年 LAN などの整備を行う。(判定: ○、△、×)</p> <p>イ) 共学化を念頭に置いた学校内の死角を排除する。(判定: ○、△、×)</p>	<p>ア) 結果: ○ 左記の施設はすべて新年度までに整備の実施が予定通り行われた。</p> <p>イ) 結果: ○ 共学化に向けて、死角を減らすため各教室等のドアに透明ガラスの小窓を設置した。</p> <p>法人と連携して最低限の準備はできたと思われるので、引き続き、来年度の教育活動を進めていく中で出てきた新たな課題について対応したい。保護者アンケートにおける学校の施設設備に関する整備管理の項目について、72%の肯定的な評価をいただいているが、一方であまり思わないという評価も 20%である。今後引き続き対応を行っていくこととする。</p>
--	--------------------	---	--	---